

北海道浮魚ニュース

平成 21 (2009) 年度 3 号 (通巻 No.274)

2009 年 6 月 8 日

北海道立水産試験場

ホームページ : http://www.fishexp.pref.hokkaido.jp/ukiuo/uki_index.htm

◎日本海スルメイカ北上期調査結果

5 月 27 日から 6 月 3 日までの期間、松前沖から秋田県男鹿半島沖にかけての海域で、函館水産試験場調査船金星丸 (151 トン、イカ釣機 5 台、集魚灯 20 灯装備) により実施したスルメイカ調査の結果をお知らせします。

調査期間中のスルメイカ分布密度は昨年同時期を下回った。魚体の大きさは昨年とほぼ同じで過去 5 年平均に比べ小さい。

1. 水温分布 (図 1)

漁獲調査点 6 点の表面水温は 13.0 ~ 15.8 °C (昨年 11.3 ~ 14.4 °C) の範囲にあり、青森県久六島西方沖の St.6 を除く全ての点で昨年を上回りました。水深 50 m の水温は 6.8 ~ 12.4 °C (昨年 7.2 ~ 11.2 °C) の範囲にあり、津軽半島西方沖の St.1 を除く全ての点で昨年を上回りました。

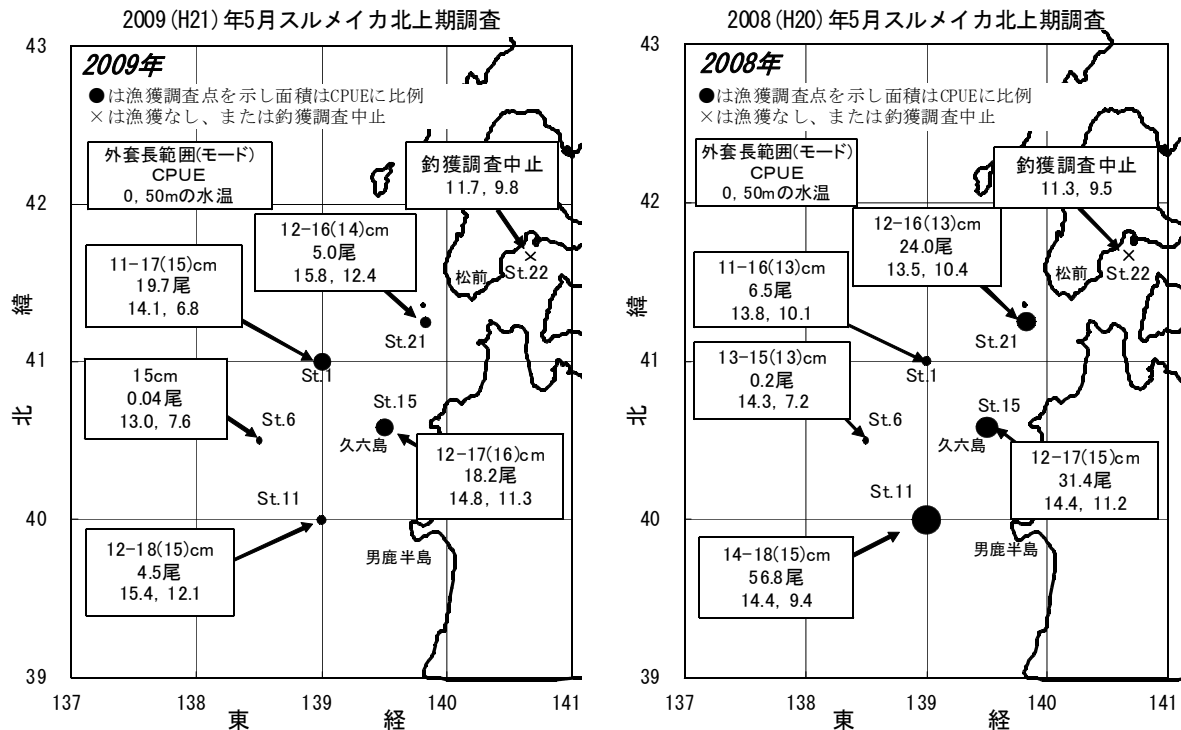


図1 スルメイカ漁獲調査結果 (2008年との比較)

2. 分布密度 (図 1、図 2)

松前沖 St.21 以南 5 地点の CPUE (2 連式イカ釣機 1 台 1 時間当たりの漁獲尾数) は 0.04 ~ 19.7 の範囲 (昨年 0.2 ~ 56.8) にあり、最も CPUE が高かったのは青森県津軽半

島西沖の St.1 (CPUE 19.7、昨年 6.5) でした。平均 CPUE は 9.5 で昨年 (23.8) を下回り、2001 年以降で最も低い値となりました。今後、群れの北上に伴う漁獲の動向に注視していく必要があります。

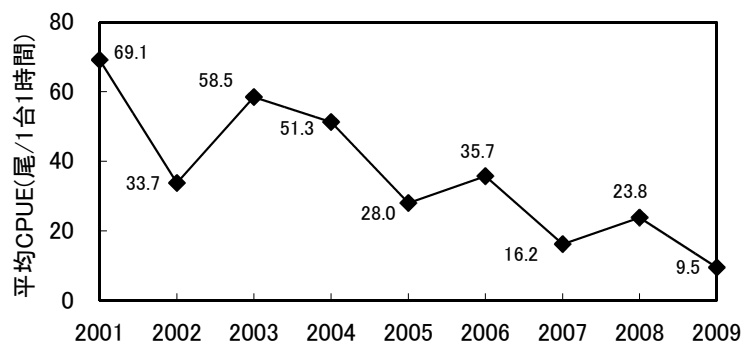


図2 平均CPUEの経年変化(2001年以降)

3. スルメイカの大きさ

調査海域全体でのスルメイカの外套長(胴長)の範囲は 11 ~ 18cm、最も多く漁獲されたイカの大きさ(モード)は 15cm で、いずれも昨年と同じ値となり、過去 5 年平均より小型でした(図 1、3)。各調査点のモードの範囲は 14 ~ 16cm (昨年 13 ~ 15cm) でした(図 1)。

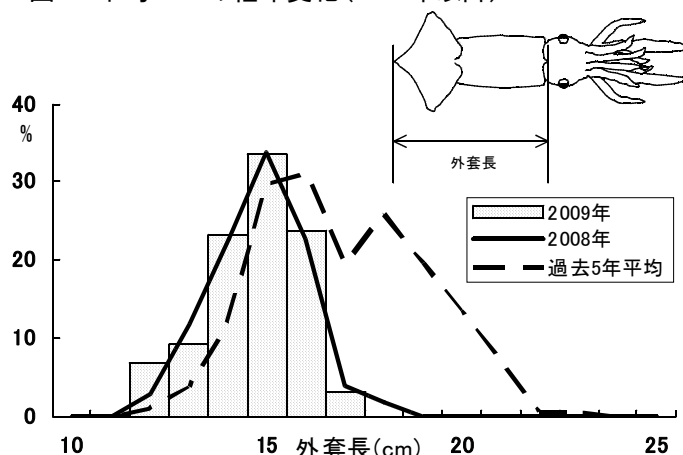


図3 調査海域全体の外套長組成

4. 標識放流 (図 4)

調査期間中、久六島北の St.15 で標識放流を行いました。標識のついたイカを発見されましたら、函館水産試験場調査研究部までご一報下さい。その際、以下の情報について、分かる範囲で構いませんのでご連絡をお願いします。

- ① 標識の形状と番号 (必ず)
- ② 再捕日時
- ③ 再捕場所 (分かれば緯度経度)
- ④ 再捕の方法 (釣り、定置網等)
- ⑤ 再捕個体の外套長
- ⑥ 再捕個体の体重
- ⑦ 再捕個体の性別

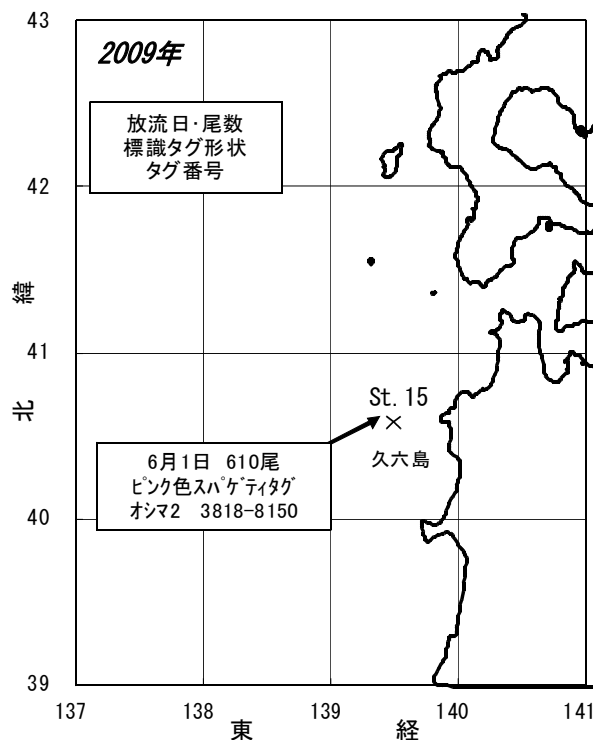


図4 2009年スルメイカ標識放流地点

(文責：函館水産試験場調査研究部 TEL：0138-57-5997 直通、FAX：0138-57-5991)